

栃木県社会福祉士会会報



〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6 発行 一般社団法人栃木県社会福祉士会
TEL 028-600-1725 発行責任者 松永千恵子
FAX 028-600-1730 編集責任者 福原 健治
ホームページアドレス <http://www.tochigi-csw.org/>

64号

発行日 令和7年7月20日

羅針盤



権利擁護委員会について

委員長 濱崎 香織



羅針盤	1
トピック	2
会長の視点	3
今日の一冊	3
福祉士おもしろいだけリレー	4
ニューフェイス紹介	4
授産製品・店舗紹介	5
情報の広場	5
福祉士会通信	6~7
30周年記念事業案内	8
フードバンクにご協力ください	8
栃木県社会福祉士会 メールマガジン登録のご案内	8
会報についてのご意見募集	8
編集後記	8

現在、栃木県社会福祉士会の権利擁護委員会では、高齢者と障害者の虐待対応を行う県市町及び地域包括支援センターや福祉サービス事業所等への相談や助言、研修の開催を通して、権利擁護の推進活動を行っています。

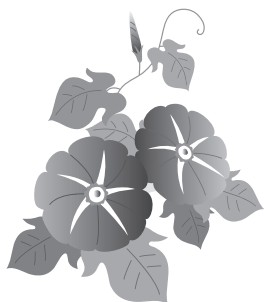
虐待とは、保護や支援を行う者が、保護すべき者に対して暴行を加えたり、日常的に嫌がらせや無視をするなどの行為を行うことです。虐待は、保護下にある者の尊厳を傷つけ、生きる力を奪うものであり、権利侵害にあたります。それら虐待から被害者を保護し、心身の安全を確保することが虐待対応です。

権利擁護委員会には、実際の虐待対応を行う県市町や地域包括支援センター等への相談・助言等を行う虐待対応センター（高齢部門／障害部門）が設置されています。センターでは、日本弁護士連合会と日本社会福祉士会が実施している、自治体向け「虐待対応専門職チーム」アドバイザー派遣と、虐待対応研修講師派遣を行っています。実際の虐待対応における支援方法への助言や会議参加等への派遣要請に応じており、最近は養護者支援や複雑化した家族支援への相談が増えてきています。

研修部会では、毎年、県と共催で開催する「養護者による高齢者虐待対応研修」、県からの委託を受けた「栃木県障害者虐待防止・権利擁護研修」の企画運営実施を行っています。国の制度やアドバイザー派遣等で得られた現場のニーズを反映させ、その年に応じた内容の研修を企画し開催しています。栃木県の介護人材キャリアパス支援事業では、高齢者介護事業所の職員を対象に「高齢者権利擁護推進研修」を実施しています。

交流部会では、専門職として権利擁護に関する学びを深めるため、毎年、栃木県弁護士会との勉強会や交流会を行っています。

普段様々な職場で働く各委員は、部会に所属して活動しています。知識や情報、経験の共有、交流を図るために、定例会や部会毎の打合せを随時開催しています。当委員会にご興味を持たれた方は、事務局までお気軽にご連絡ください。



トピック

「権利擁護委員会部会毎の活動報告」

①「虐待対応センターの現状と課題」

【高齢部門】 増渕 祐子

【障害部門】 菱沼 勲

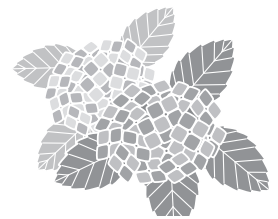
【高齢部門】

現在契約件数は、栃木県・14市町・1委託型包括の計16件。昨年度派遣実績は、アドバイザー派遣4件、講師派遣3件。派遣メンバー登録者12名。

本来自治体を対象とした派遣事業であることから、県内全市町に契約して頂くことが望ましいところですが、約6割にとどまっておりここ数年は殆ど増えておりません。派遣件数も決して多くはありませんが、各市町の虐待対応力が上がっていることも想定されるため派遣件数が少ないことのみをもって課題とするのは浅薄ですが、活動実績が少ないことは事業自体の課題であり、且つ派遣メンバーの人員確保と質の担保も含め、この事業がより有効に機能する為の我々の創意工夫が必要であると改めて思うところです。

【障害部門】

現在契約件数は、7市町となっており、派遣メンバー登録者12名。高齢者に比べて契約市町はさらに少ないのが現状です。また、派遣依頼が障害者虐待対応センターを立ち上げてからまだなく、どのように派遣の意義を理解していただくかも課題となっています。そんな中、今年度に関しては虐待防止に関する研修の講師派遣依頼が1件ありました。これを機会に、虐待対応に関する派遣に繋げていけたらと思います。



②「研修部会について」

馬目 智子

研修部会では、高齢者虐待対応研修（初級、フォローアップ、課長級）キャリアパス権利擁護研修、障害者虐待防止権利擁護研修の企画運営を行っております。

各研修の主担当を中心に役割分担のうえ実施し、研修後に振り返りを行い次年度に活かせる改善点などを話し合っています。みな、業務の合間に準備のため、打合せはオンラインで行っています。研修当日に実際

に顔を合わせて近況報告をしあうことも楽しみの一つです。研修は責任があり大変ですが、全国規模の研修への参加や、最新情報について勉強し研修準備しています。困った時に職場以外にも相談できる仲間がいることは強みです。最近、新しいメンバーも増え活気が増えています。お仲間募集中！

③「交流部会」

菱沼 勲

交流部会では、虐待対応センターにおける弁護士会との合同研修や意見交換の場を設けることで、交流を深めることを目的としています。コロナ禍により合同研修がしばらくなかったのですが、令和7年2月に久しぶりに弁護士会、社会福祉士会の合同研修を行いま

した。内容は、虐待対応センターの役割の確認と、派遣事例をもとに意見交換を行うことで、お互いの専門性を再認識しました。今後も毎年1回は弁護士会と交流ができるよう企画していきたいと思います。

会長の視点

世のため人のために働く

栃木県社会福祉士会 会長 松永 千恵子



これからも福祉の道を進んで参ります。

ある社会福祉法人の理事会での出来事です。隣の席に日本でも指折りの社会福祉法人の理事長さんがお座りになりました。その理事長さん曰く、「今、うちの法人は〇〇億ぐらいの赤字で、2月3月は眠れない夜が続きました。そこで、最後は神頼み、明治神宮に幹部役員一同でお願いに行きました。」実はこの社会福祉法人さんは、明治天皇ゆかりの社会福祉法人さんです。ここまで書きましたら、どの社会福祉法人さんなのかお分かりになる方もいらっしゃるでしょう。

「私も神社にお参りに行くのが好きです。あの清々しい空気に触れて、神様に清めていただける、生き返る気がします。」とお答えしました。そして、理事会終了後、その町の地名にもなっている神社にお参りをして帰ることにしました。

無事にお参りを済ませ、何気なくおみくじを買って開けて驚きです。

おみくじの中身は、末吉。最初にかかれていた文章

は、「籠の中にいた小鳥が放されて自由に飛び歩く様に苦しみ逃れて楽しみの多い身となる運です。世のため人のために尽くさない。」

「願ひ事」は、「他人を助けよ。人の助けにて叶います。」

神様は、私がどのような状況にあるのか、御存じなのでしょう。おみくじでこのようなことを告げられると、信じてしまいます。30代、最初に働いた手をつなぐ親の会の作業所で、「私はこの人たちの幸せのために働こう。」と強く思いましたが、今回のおみくじには、初心を忘れかけていた私が、もう一度、背中を押された気がしました。「今後の人生は、より一層、人のため世のために働かなければいけない。」と。

ところで、おみくじには最後に「縁談」があり、「無理にすれば腹立ちごとありて後に困ります。」これってどういうこと？

今日の一冊

「がんばることをやめられない」

鈴木 裕介

『がんばることをやめられない コントロールできない感情と「トラウマ」の関係』

KADOKAWA、2023年

「がんばることがやめられない」——福祉の現場に身を置く私たちにとって、この言葉は決して他人事ではありません。

十数年前、相談援助の仕事をしていた私は、「人のために」と自分を後回しにして頑張り続けていました。心配な利用者のことが頭から離れず、些細なミスにも過敏になり、休んでいても心は休まりませんでした。そんな積み重ねが私を燃え尽きへと追い込みました。季節性のうつに陥ったとき、私はようやく「自分が“自分の支援”をしていなかった」と気づかされたのです。

その経験を経て、自分自身のケアを学び、今はソーシャルワークのまなざしを大切に公認心理師として活動しています。

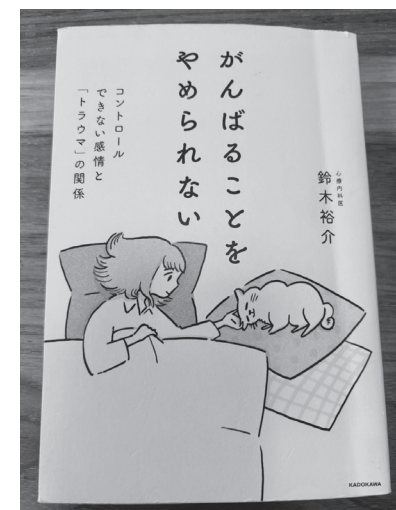
本書には、「動き続ける苦しさはあるけれど、止まることはもっと苦しい」「断りたいのに断れない」といった言葉が出てきます。鈴木先生は、「頑張りすぎ

る人”の背景にある過去や自己評価の低さを否定せず、それが「生き延びるための戦略」だったと受けとめてくれます。

心理師としての立場から言えば、こうした視点はまさにバイステックの7原則に通じるものです。なかでも「個別化」や「受容」「非審判的態度」は、支援者がまず自分自身に向けるべき態度でもあります。

“自分をいたわるまなざし”を育てることは、支援の質を守ることにもつながるのだと、改めて気づかされました。

“自分をいたわるまなざし”を育てることは、支援の質を守ることにもつながるのだと、改めて気づかされました。



(風の丘心の相談室 中島 真理)

福祉士 おもいのたけリレー

県内で活躍する社会福祉士が、実践への「おもいのたけ」を語っていくコーナーです。このコーナーは、リレー方式で次の社会福祉士につないで掲載していきます。

掲載内容：①氏名(ふりがな) ②所属 ③趣味 ④実践へのおもいのたけ ⑤次にバトンをつなぎたい方

①篠木 史恵(しのぎ ふみえ)

②佐野市地域包括支援センター

佐野市医師会

③双子の息子達と遊ぶこと、読書

④私が福祉の分野で仕事をしたいと

思ったのは、東日本大震災でのボランティアがきっかけでした。営業という異なる業種から転職し、現在は地域包括支援センターの社会福祉士として勤務しています。

日々の実践の中で大切にしているのは、「それぞれのものさし」です。高齢分野で関わって特に思うのは、其々が豊かな人生経験、歴史があって、そこに現在の環境や体調、感情があって色々なものさしをお持ちです。ソーシャルワーカーとして私の仕事は、虫の目、鳥の目、魚の目、蝙蝠の目と多角的にケー



スを捉えながら、ものさしのずれ違いから絡まってしまった事柄や関係性の糸をできるだけご自分たちの力でほどいていけるようお手伝いすることなのかなと思っています。今の環境は、日々新しい出会いが沢山あり、学びの連続です。出会いは一期一会、一つ一つの出会いを大切にこれからも励んでいきたいと思っています。

⑤今回は、合同会社ソーシャルサポート明日向の坂入啓太さんにバトンを渡したいと思っています。



若手のエネルギー溢れる新社会福祉士をご紹介します。

ニューフェイス紹介

①氏名(ふりがな) ②所属(事業所名、職種)

③マイブーム(趣味、特技、こだわり等)

④社会福祉士になったきっかけと抱負

①佐藤 俊介(さとう しゅんすけ)

②社会福祉法人ふれあいコープ

特別養護老人ホームみどり

介護職員

③手芸(編み物、刺繍など色々)

遠距離ドライブで気分転換すること

④社会福祉士になったきっかけは、高校在学中の頃で

す。障害のある兄と過ごす中で、福祉に興味を持ち、社会福祉士を知りました。大学での専門的な学びを通して、「地域で安心して暮らすことの大切さ」を強く感じました。そして、地域で困りごとを抱えている方々を支えることができるような社会福祉士になりたいと思いました。

現在の仕事では、ご利用者様の日々の生活を支えることに力を入れています。日々の何気ない会話や関わりも、ご利用者様にとってはとても大切な出来事



となりますので、コミュニケーションを何よりも大切にしております。また、ご利用者様を利用者としてだけではなく、これまでの豊かな人生経験をお持ちの方として尊敬し、その方が大切にされてきたことや、これからやってみたいことなど、お一人おひとりの心に深く寄り添った介護を心がけております。

職場の中では、先輩職員や他職種の人などからアドバイスをいただくこともあります。そういったアドバイスを参考にしながらより良い介護を目指していきたいなと思います。



授産製品・店舗紹介

このコーナーでは、障害のある方々が作る授産製品や販売する店舗をご紹介します。

ほっこりできる場所 そらまめ食堂
(NPO法人ま・わ・た)

住 所 真岡市田町2560番地 4

電 話 0285-82-5550

H P <https://soramame.monster/>

梅雨の合間のお昼時、吹き抜けの天井で開放感のある雰囲気の中、お客さんは食事を楽しんでいた。ここは、県立真岡女子高近くの多機能型事業所（就労継続支援B型と生活介護）そらまめ食堂。広い厨房は、



動線が広く確保され、働きやすいよう設計されている。利用者も職員も同じ服装で声をかけ合い、和気あいあいと働いている。名札には名前とコメントが書いてある。「時計

を見せてもらおうと落ち着きます」とのこと。お客さんは分かって時計を見せる。お互いの存在を認め「そっかいそっかい、いいよいいよ」といった雰囲気が心地いい。

隣には生活介護の“アトリエファーマーベ”、市役所隣の真岡市複合交流拠点施設 monaca の図書館内に、“monacafe そらまめ”があり、本を読みながら飲食ができる。作業は、最初からやりたいことをしてもらうことで、楽しく取り組める。接客がやりたい人はウエイター、接客が苦手な人は厨房、創作が好きな人は工房で働く。さらに、こども食堂を展開し、地域の人たちとの交流は広がっている。今度は、“monacafe そらまめ”で好きな本を読みながら、ゆっくりコーヒーでもいただこうかな。（長）



情報の広場

宇都宮市の「つながるファイル」

切れ目のない支援のための「つながるファイル」

「つながるファイル」は、宇都宮市の子ども発達センターと教育センターが中心となり、医療や保健、福祉、教育など25の関係機関、団体等で構成する「宇都宮市発達支援ネットワーク会議」で作成されたものです。発達が気になるお子さんの特徴や日常生活の中での関わり方、医療機関や相談機関の利用経過、学校や施設の支援計画などを一冊のファイルに綴るお子さんの成長記録です。

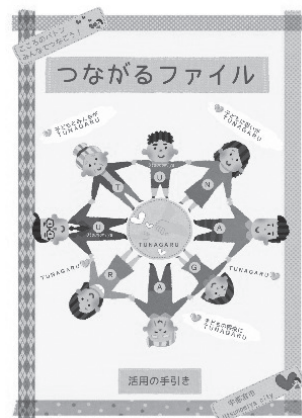
「つながるファイル」は 11の標準シートに加えて、お子さんの発達状況や障がいの特性、年齢などに応じて自由に選択することができる23のオプションシートで構成されていますが、全てのシートを作成する必要はなく、お子さんの状態に合ったシート、お子さんについて伝えたいシートを自由に選んで記録できるようになっています。シートは、宇都宮市のホームページに Excel版で掲載されているため、手書きの他、パソコンやスマートフォンで入力して作成することもできます。

これまでは、個人情報保護の観点から、特に、多くの支援者が同時に関わる際の情報共有や、ライフステージが変わる時の引継ぎが効果的にできない課題がありました。「つながるファイル」は保護者が作成・

管理するので、保護者自らが開示することで、同意を前提とした上で、就園・就学・卒後など、新しい環境に変わる時に、お子さんが初めて出会う支援者・関係機関と情報を共有することができます。加えて、就労・災害時・親亡き後にもつながるための内容も含まれます。

この「つながるファイル」が本来の目的の一つでもある、お子さんの健やかな成長の一助となるためには、現在及び将来に渡ってお子さんに関わる周囲の人に対する周知と共に、関係機関の理解を得ること、さらには、作成が難しい保護者へのサポート等も大切だと感じました。

（障がい者生活支援センターひかり 手塚 希）



<参考・引用>

「つながるファイル」活用の手引き

<https://www.city.utsunomiya.lg.jp/kosodate/kosodate/hattatsu/1040234.html>

栃木県社会福祉士会のブロック会・委員会・PT(プロジェクトチーム)の活動を紹介する掲示板です。

福祉士会通信

社会福祉士の皆さま、日頃の実践の質を高めるため、福祉士同士の輪をつくるため、是非会活動に参加しましょう。福祉士以外の方におかれましては、ブロック会等で研修会等を企画しております。是非ご参加ください。

お問い合わせは、栃木県社会福祉士会までお願いします。

総務企画委員会(松本裕行) 権利擁護委員会(濱崎香織) 生涯研修センター(金岩周平) 社会福祉評価委員会(鈴木康之)
権利擁護センター・ばあとなあとちぎ(小口みほ子) 広報委員会(福原健治) 災害福祉委員会(吉澤洋介)
県北ブロック(福原健治) 独立型社会福祉士委員会(松本佑司) スクールソーシャルワーク委員会(船山克美)
司法福祉委員会(阿部和史) 児童福祉プロジェクトチーム(片桐洋史)

総務企画委員会

松本 裕行

2025年11月30日(日曜日)に栃木県社会福祉士会30周年記念事業を開催します。現在、実行委員会を発足して準備中です。皆様、奮ってご参加ください。そして5月12日に開催しました第12回定時総会は、正会員数589名のうち、出席正会員数27名、定款第19条による書面表決者数271名でした。第1号議案「2024(令和6)年度事業報告」、第2号議案「2024(令和6)年度収支決算及び監査報告」とも、全員の承認をもって可決されました。第3号議案「役員(顧問)選任案」については、出席会員27名、書面表決書219、委任状49により、大友崇義氏に顧問を委嘱することが承認されました。ご協力いただきありがとうございます。さらに、2024年度日本社会福祉士会「正会員に対する活動助成」についてです。昨年度、日本社会福祉士会の助成金制度を活用し、栃木県社会福祉士会事務所機能強化事業として、事務机、事務用椅子、ノートパソコンを購入して共同事務所内に設置していることを報告します。

- ・自己研鑽の機会を提供する任意研修では、8月3日に国際医療福祉大学 中山和幸先生による「子ども子育て関連法改正の理解」をオンラインで開催いたします。
- ・実習指導者養成研修を今年度は10月11日・12日(11日オンライン、12日集合研修)に行います。
- ・調査研究委員会では、県民の福祉の向上に資する調査研究活動を行っています。精神保健福祉士協会と合同で「地域共生社会におけるソーシャルワーカーの現状と課題」について調査研究や報告書作成を行う予定です。社会福祉士学会島根大会でこれまでの研究成果を学会発表いたしました。

社会福祉評価委員会

鈴木 康之

当委員会は、第三者評価と外部評価の活動を行っています。

第三者評価は、福祉サービス事業所が提供するサービスの質に対して評価する事業です。対象事業所は、栃木県内の保育所や障がい者施設、高齢者施設など、幅広い事業所が対象となっています。外部評価は、認知症対応型グループホームを行う事業所に対して評価する事業です。どちらの評価活動も事業所の欠点を指摘するのではなく、事業所の取り組みや工夫している点などを評価する活動です。

第三者評価、外部評価ともに多くの評価受審を頂き、活動を進めることができております。今後も評価委員会の幅広い活動や運営を行っていききたいと思います。

権利擁護委員会

濱崎 香織

●令和7年度、4月～7月の活動報告

虐待対応センター【高齢】：講師派遣1件(地域包括支援センター職員向け)、専門職アドバイザー派遣1件

研修部会【高齢】：高齢者虐待対応初級研修、課長級研修実施

●令和7年度、8月～の予定

虐待対応センター【障害】：1件(10月)

研修部会【障害】：障害者虐待防止権利擁護研修(市町職員向け、9月)(施設職員向け、1月)

研修部会【高齢】：キャリアパス権利擁護研修(10月)、高齢者虐待対応フォローアップ研修(12月)

交流部会：弁護士会との交流会(時期未定)

※虐待対応センターは、随時派遣受付

権利擁護センター・ばあとなあとちぎ 小口 みほ子

今年4月から新たに6名の名簿登録者が加わり104名となりました。昨年度裁判所からの推薦依頼は97件と一昨年よりは少ないですが、継続受任件数が390件となり多くの名簿登録者が後見活動をしている状況です。

他府県から比べるとまだまだ発展途上ではありますが、組織は徐々に大きくなり、充実した後見活動ができるようフォローアップ研修を年6回開催しています。

今年度は二年ぶりに成年後見人材育成研修を開催します。今年度基礎研修Ⅲ受講中の皆様、終了後はぜひ成年後見人材育成研修を受講いただき権利擁護センターばあとなあとちぎの会員となっていただけると幸いです。

生涯研修センター

金岩 周平

・基礎研修Ⅰ(集合研修年間2回)、Ⅱ(同9回)、Ⅲ(同10回)を運営しております。成年後見人養成研修受講や、認定社会福祉士取得を目指す方にとって基礎研修は必修となります。

また、各市町社協法人後見運営委員会委員、成年後見利用促進協議会（中核機関）委員等への派遣、市民後見人養成研修講師の派遣等活動の幅が広がっております。

広報委員会

福原 健治

広報委員会では、ホームページや会報などを通じて、栃木県社会福祉士会の活動内容報告や研修会・求人などの情報提供をさせていただいております。

今回の会報では、「権利擁護委員会」にスポットライトを当てて、活動内容を紹介させていただきました。その他にも、委員会の活動、ベテラン・新人会員の紹介、書籍、授産製品・店舗の紹介などを掲載させていただきました。

ところで、広報委員会は、メンバーを募集しております。活動は、主に会報作成やホームページの管理ですが、メンバー同士の交流や情報交換も出来ますので、ご興味のある方は、事務局まで声をかけてください。

災害福祉委員会

吉澤 洋介

去る3月9日に都道府県社会福祉士会災害担当者会議が開催され、その中で内閣府防災担当の方より災害対策基本法の一部改正について説明がありました。能登半島地震の教訓を踏まえ改正に至ったわけです。避難所という「場所」を問わず、配慮を必要とする「人」に対する在宅避難や車中避難を含めた支援、救助の中に福祉サービスを追加するなど、私たち福祉専門職に求められる要素が多分に含まれる改正です。

当委員会は、昨今の気候変動による災害の激甚化に備えるため、2021年8月に策定された「栃木県社会福祉士会大規模災害時対応ガイドライン」の見直しを進めてまいりたいと思います。

県北ブロック

福原 健治

コロナ禍以降、しばらく活動を休止しておりましたが、今年こそは県北ブロックの活動を再開したいと考えております。

まずは、懇親会（交流会）を企画したいと思いますので、ぜひご参加ください。

独立型社会福祉士委員会

松本 佑司

当委員会のメンバーを中心にGW期間中の電話相談事業に参画しました。

GW期間である、5月3・4・5・6日の4日間を当会会員で協力してチームを組み、電話相談に応じました。日頃自分の電話相談を他者と共有する事、言葉かけや対応について振り返る機会が少ないため、多くの気づきもあった事かと思えます。

そして、日頃の実践を電話という限られた環境で対応をするという実践力を高められる非常に貴重な機会となりました。

また、当委員会では月1回第2月曜日にオンラインで定例会を開催しています。

独立しても、いなくても委員会加入や話題提供会に参加が可能です。

少しでも関心がありましたら、ご連絡ください。

スクールソーシャルワーク委員会

船山 克美

スクールソーシャルワーク委員会では、6月の運営委員会をオープン形式として、会員の皆様と交流を深めました。直前のオープン開催であったため参加された方々も少数でしたが、現役のSSWや関連施設の方々と活発な情報交換ができました。今後もオンラインだけでなく、参集形式でも茶話会ができればと考えています。また、現在昨年度も開催したフォローアップ研修に加え、基礎研修についても企画中です。SSWに興味・関心はあるけれど、謎が多すぎると感じている皆さん。是非、オンライン茶話会や研修会に参加してみてください。たくさんの皆さんのご参加、お待ちしております。

司法福祉委員会

阿部 和史

今年度も司法福祉委員会では、宇都宮地方検察庁からの依頼で起訴されていない罪に問われた障がい者又は高齢者の方への面談を行い、生活再建の為の計画を作成し、関係機関への調整等を検察に助言を行っていく、入口支援を継続していく予定です。また、起訴はされたが弁護士が接見時の見立てで福祉的な支援が必要と感じたクライアントに対して、社会福祉士が依頼を受けての面会同行や更生支援計画の作成、参考人での出廷の支援も継続していきます。今年度の1月には日本社会福祉士会で行っていた2日間に渡るリーガル・ソーシャルワーク研修を、栃木県社会福祉士で開催予定です。興味がある方は是非、ご参加ください。

児童福祉プロジェクトチーム

片桐 洋史

季節ごとに、こども福祉に関する勉強会を開いてます。

2月は刑務所勤務の社会福祉士から「塀の中の困った人たち」と題して現場の現状を話していただきました。刑務所内の人権を守る取り組み、心理職を含めた職員体制、受刑者の学び直し、動機付けあつての作業など、私たちの仕事に深く通じるものを感じました。

4月は宇都宮駅前のお店で意見交換会？あれは年度始めの懇親会でした。

6月は「家庭や学校とは異なるその子らしく過ごせる第三の居場所」と題して、放課後等デイサービス・児童発達支援を運営される社会福祉士のお話でした。突発的に起きた問題行動も、こどもの行動には意味がある。放デイ事業所の数に比べ、相談事業所の数が足りてない。セルフプランが多いなど課題も共有されました。

次回、9月は里親ですよ。こども領域の広いこと。

栃木県社会福祉士会30周年記念事業

ぜひご参加ください！

テーマ 栃木県社会福祉士会30周年の軌跡とこれから～社会福祉士の使命と可能性～

日時：2025年11月30日(日)10時～

会場：とちぎ福祉プラザ

参加費：1000円(会員・非会員)

※新入会員・学生は無料

プログラム

記念講演(淑徳大学 結城康博教授)

分科会(各委員会からの実践報告)

シンポジウム(若手社会福祉士と多職種)

テーマ「これからの社会福祉士に期待すること」

懇親会もあります(18:00～ホテルニューイタヤにて)



申込方法：二次元コードまたはFAXにて <https://forms.gle/orLkMq7dP7twYJA89> FAX -028-600-1730

※ 詳しくは、栃木県社会福祉士会HPまたはチラシをご覧ください

フードバンクにご協力ください

新型コロナや物価高騰の影響で、生活に困りフードバンクを利用せざるを得ない方が増えております。

栃木県社会福祉士会では、「フードドライブ」として、家庭などで食べきれないで余っている食品を持ち寄り、施設、フードバンクにお届けする「きずなBOX」を、とちぎ福祉プラザ3階の共同事務所に設置しておりますので、研修会や会議で福祉プラザにお越しの際

には、一品でも結構ですので、ぜひお持ちください。

お預かりした食品は、NPO 法人フードバンクうつのみやにお届けさせていただきます。

なお、お持ちいただきたい食品例(お米、レトルト食品、缶詰、乾物、お菓子など)、NGとなる食品例(野菜、水)となりますので、ご協力ください。

<栃木県社会福祉士会メールマガジン登録のご案内>

広報委員会ではメルマガ【栃木県社会福祉士会「情報交流の場」】で、研修会の案内や職員募集、国や県内等の新しい情報等を配信しております。

ご希望の方は下記アドレスからご登録してください。

なお、申し訳ございませんが、「docomo.ne.jp」「ezweb.ne.jp」「t.vodafone.ne.jp」等のドメインご使用のメールアドレスには配信が出来ない方もいらっしゃるので、出来ればそれ以外のアドレスでの登録をお願いいたします。

info@tochigi-csw.sakura.ne.jp

・件名に『メルマガ登録希望』というタイトルをつけて、本文に「氏名」、「会員番号」、「受信用のメールアドレス」を、メールにて送信してください。

【会報についてのご意見や投稿を募集しております！】

取り上げて欲しい内容や会報の感想、また掲載して欲しい投稿をお寄せください。

ご意見や投稿には、件名を「会報の意見」として、事務局メールアドレスにお送りください。

Mail : info@tochigi-csw.sakura.ne.jp

皆様の貴重なご意見を、会報作りの参考にさせていただきます。

編集後記

今年は栃木県社会福祉士会 創立30周年になります。30年前と検索したところ阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件とありました。今年も半分が過ぎましたが、今のところ『令和の米騒動』でしょうか。年末には30周年大成功のニュースが待ち望まれます。

(坂本)

広告

社会福祉法人
南都会
グループ
福祉の森

★在宅サービスからご入居まで、その方の個性に合わせてサポートさせていただきます★

元気の里 / 元気の家 / 元気の部屋

特別養護老人ホーム / ショートステイ / デイサービスセンター
/ ケアハウス / 在宅介護支援センター / 地域包括支援センター

法人理念 思いやりと奉仕
施設方針 家族主義
真心のおもてなし
一生懸命

社会福祉法人 南都会
〒321-0157 栃木県宇都宮市幕田町 1456-1
TEL:028-655-2611 FAX:028-655-3577
<https://nantokai.com>

※広告掲載について、ご希望・お問い合わせの方は、事務局までご連絡ください。